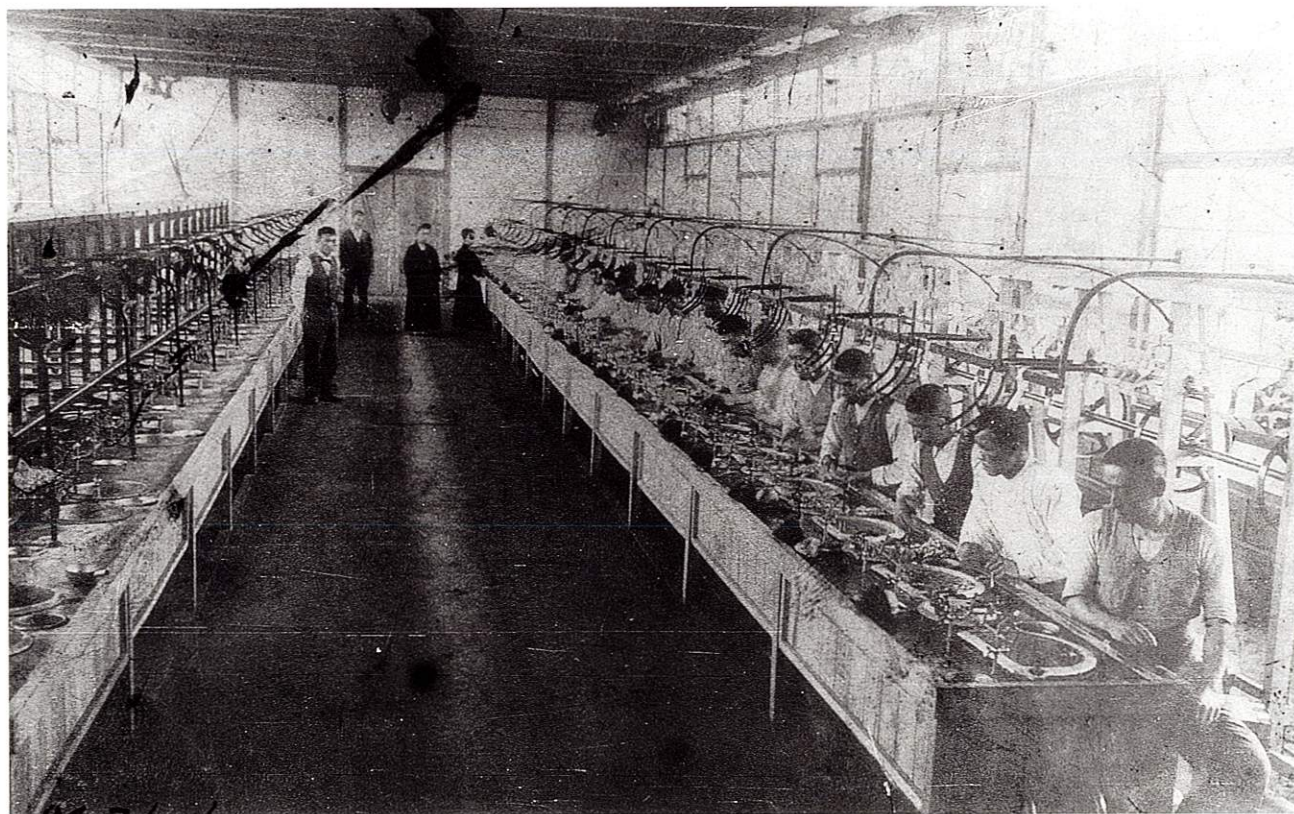


IV 養蚕と製糸

開国を機に外貨獲得の原動力として養蚕・製糸業が奨励され、明治 10～20 年代にかけて市内には森田製糸・笹本製糸・山八製糸・山周製糸などの絹糸の製糸所が設立されました。動力が水車から蒸気機関になると生産量も増え、最盛期には 400 人以上が働き年間 27 トンを生産する所もありました。多摩川沿いの荒地を開墾して桑畑が作られ、蚕業講習所も設けられて技術指導が盛んに行われました。明治・大正と隆盛を極めた一大産業も昭和初期の恐慌や最大の輸出先だったアメリカとの戦争、食料増産のための桑園縮小により急速に衰えていきました。



51 森田製糸所の糸繰り場 熊川（森田製糸所） 明治36年6月

52 山八製糸所従業員の観桜会 大正4年

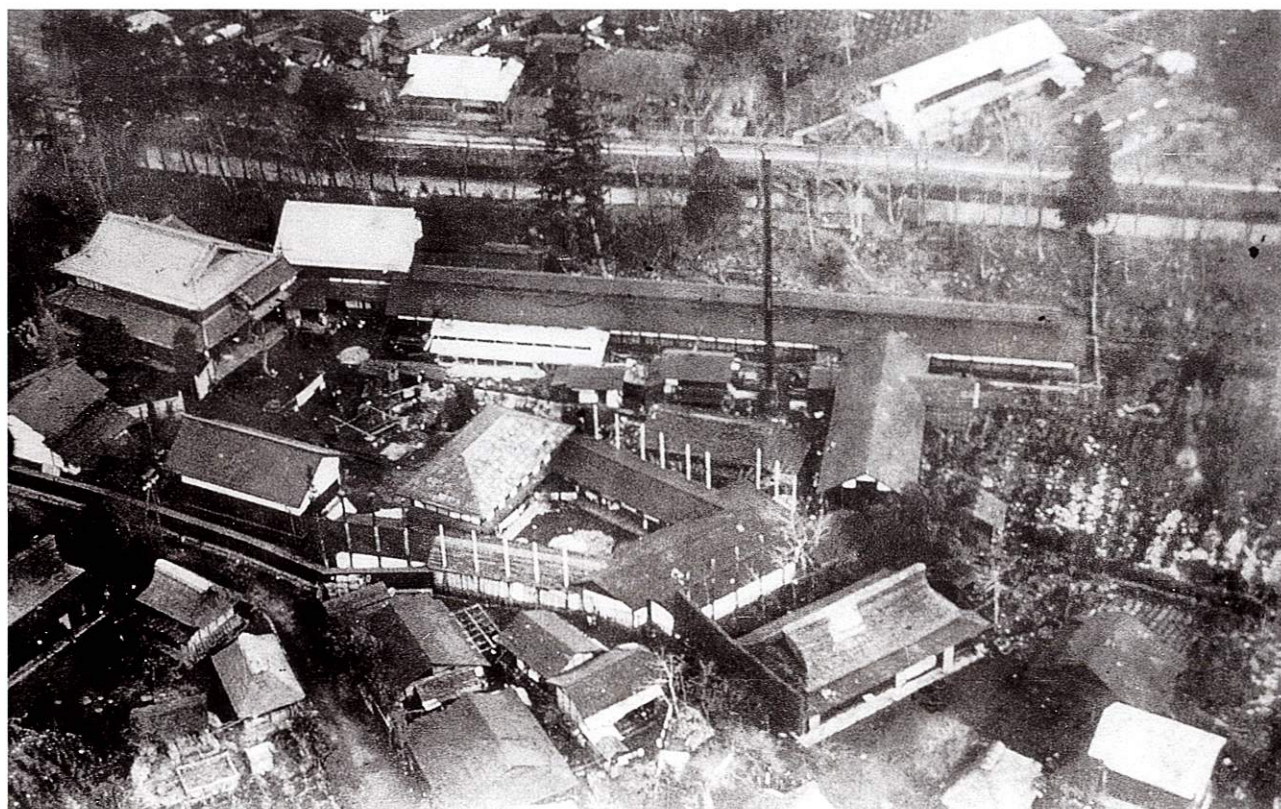




53 コノメ（蚕を飼う台）作り 熊川 大正10年

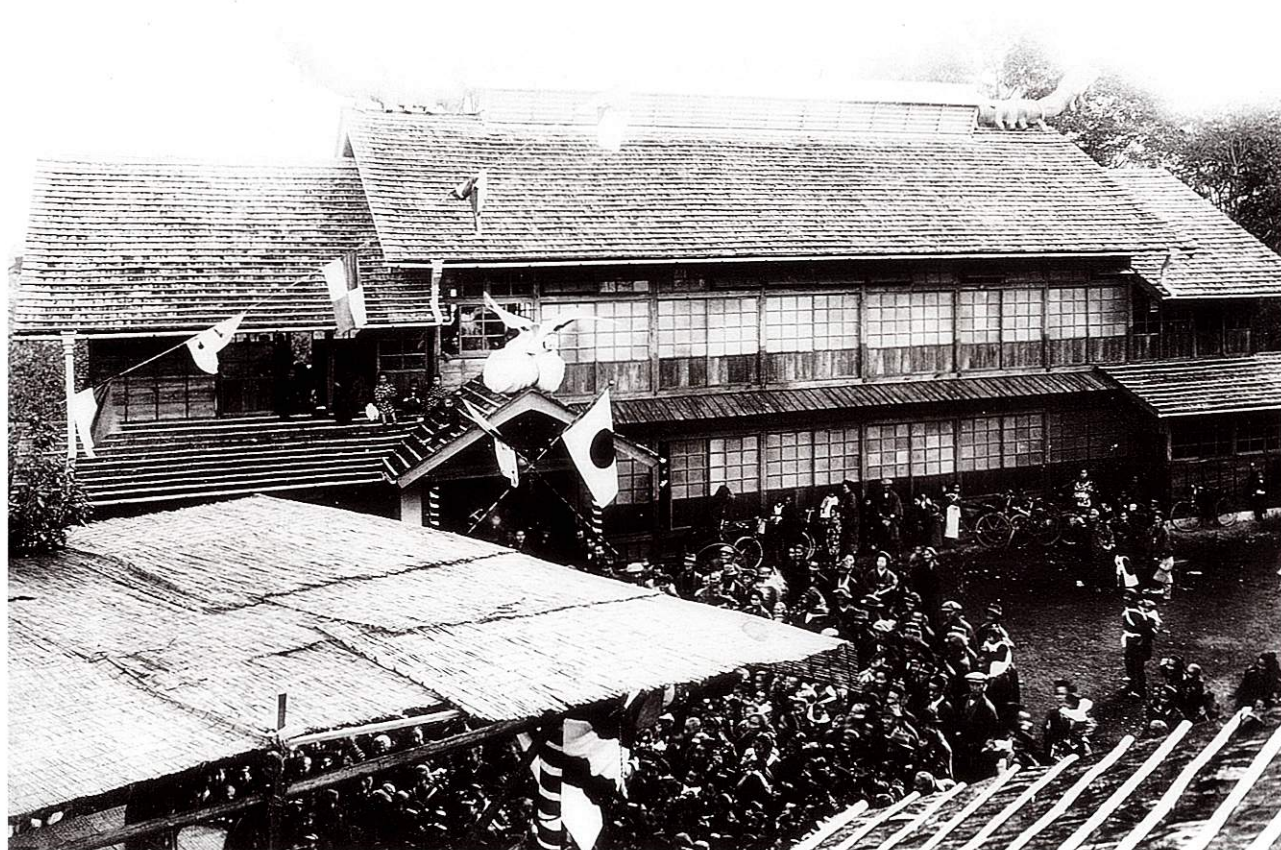
54 拝島精練のくず繭集荷のトラック 熊川（山八製糸所） 大正10年





55 空からみた笹本製糸所 福生（永田） 大正9～10年頃

56 成進社高崎蚕業講習所での繭の品評会 福生（加美） 大正9か12年





57 森田製糸所の工女さんたち 熊川（森田製糸所） 大正14年8月

58 森田製糸所の糸繰り作業 熊川（森田製糸所） 大正14年8月

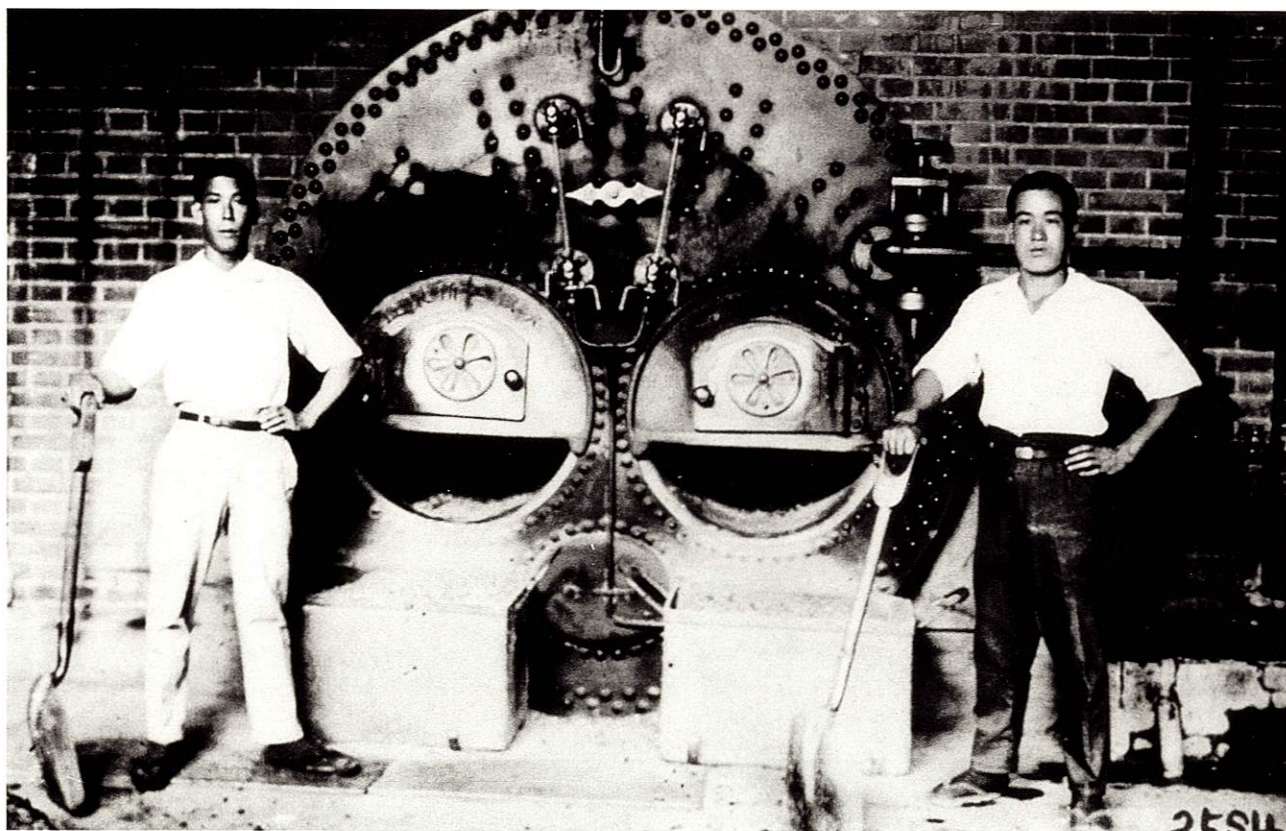




59 繭の搬入風景 熊川（森田製糸所） 大正期

60 森田製糸所再繰工場 熊川（森田製糸所） 昭和元年





61 森田製糸所機関部 熊川（森田製作所）昭和元年

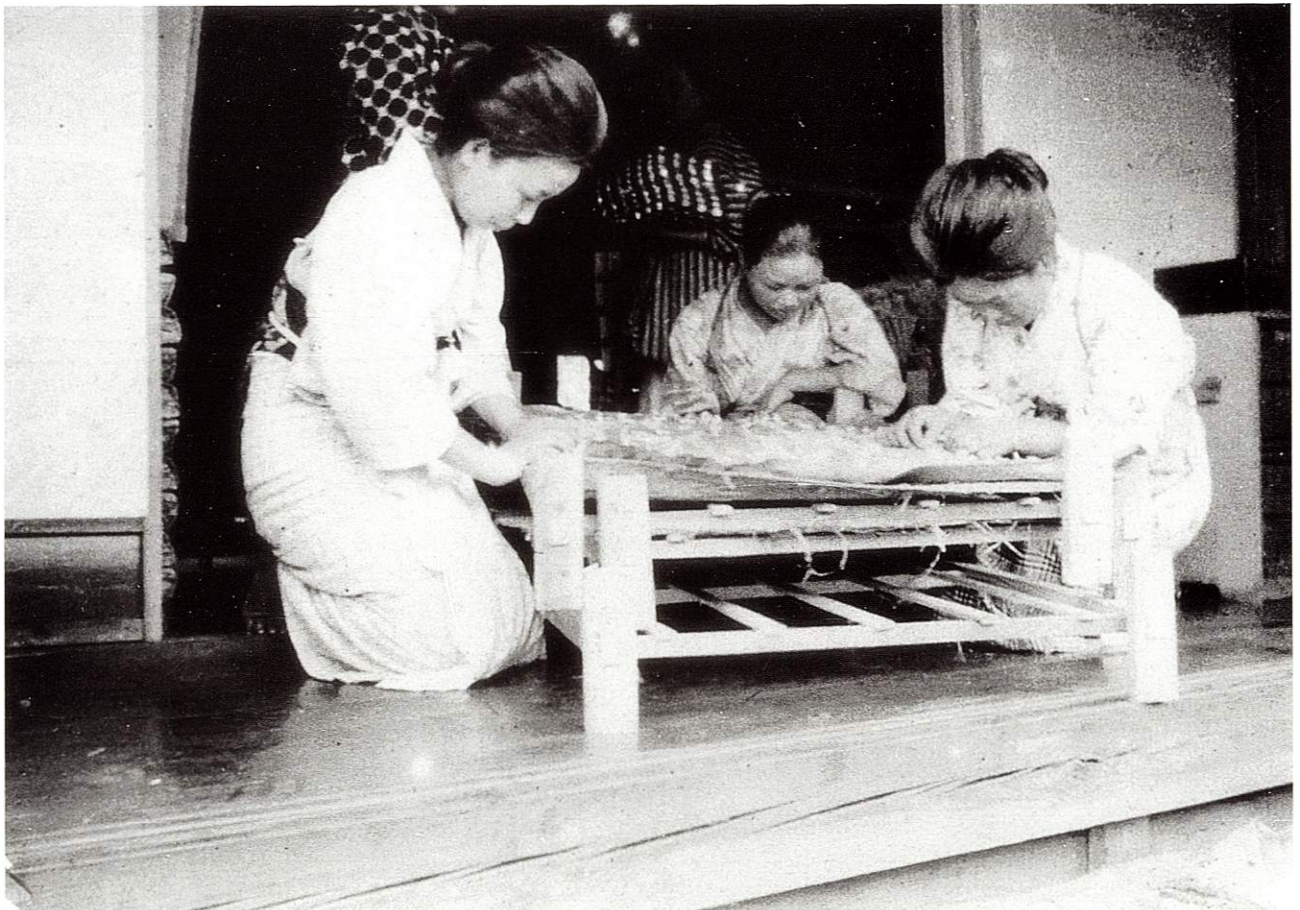
62 多摩製糸所の工女さんたち 熊川（五日市鉄道鉄橋下）昭和10年代





63 多摩製糸所の糸繰り作業 熊川（多摩製糸所）昭和13～15年頃

64 種屋（蚕種）の作業のようす（カイコガの交尾） 福生 昭和初期





65 種屋（蚕種）の作業のようす（種を乾かす） 福生 昭和初期

66 蚕の飼育 福生（原ヶ谷戸） 昭和30年代か

